

登録コード	UAG05500	開講年度	2026				
授業題目	法制度の経済分析特論					担当教員	廣瀬 純夫
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・経済学, 2 5 UAカリ・総人社・経済学, 2 4 UAカリ・総人社・経済学						
	【経済学】経済学分野の高度で先端的な知識と技能を有する。					・ミクロ経済学の分析手法によって法制度の役割を解釈するという新たな視点を身に付けることができる。 ・情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を応用することで、コーポレート・ガバナンスや、解雇規制, 知的所有権の問題など, 現実の社会で問題になっている事象について, 問題の所在を, 的確に理解できるようになる。	
(2)授業の概要	授業では、取り上げるトピックスについて理論モデルを提示し、基本的な構造を説明する．その上で、現実に対応した摩擦をモデルに加えることで、法制度が状況を改善する可能性を検討する．現実に対応する形でモデルを拡張する過程では、受講生から意見を求め、積極的な授業参加を期待する．授業での解説・議論を基に、受講生は課題に取り組み、レポートを作成する．その際には、先行研究等の文献や関連するデータを確認しなければならない．授業で提示した理論モデルを拡張し、自らの主張を展開できることが望ましい． 遠隔授業を実施する際は、Zoomを使用したリアルタイムオンライン授業とする。ZoomミーティングのURLは、eALPSまたはメールにて事前にお知らせする。						
(3)授業計画	第1回 法と経済学入門（借地借家法の影響） 第2回 ゲーム理論による不法行為法の分析（1）厳格責任ルールと過失責任ルールの効果の違い 第3回 ゲーム理論による不法行為法の分析（2）現実に用いられている責任ルールの検討 第4回 ゲーム理論による雇用契約の分析(1)不完備契約と、所有権割当の効果 第5回 ゲーム理論による雇用契約の分析(2)解雇規制が雇用市場へ及ぼす影響 第6回 ゲーム理論による雇用契約の分析(3)解雇規制と企業関係特殊投資との関係 第7回 コースの定理と法制度の意義(1) 所有権の役割についての整理とコースの定理 第8回 コースの定理と法制度の意義(3)取引費用の存在と法制度の存在意義 第9回 少数株主保護（１）なぜ、株主主権なのか 第10回： 少数株主保護（２）契約の不完備性の観点からの少数株主保護と市場の効率性 第11回： 少数株主保護（３）企業買収時の残存株主の問題 第12回： 倒産法制の役割（１）経営者への規律付けとしての負債契約の役割 第13回： 倒産法制の役割（２）効率的な倒産時の対応としての倒産処理法制のあり方 第14回： 知的財産権（１）知的財産権の意義と独占の弊害を軽減する制度上の工夫 第15回： 知的財産権（２）職務発明制度の効率的なあり方についての検討 期末試験の有無：無 レポート課題の出題時期や提出期限等については初回イントロダクション又はeALPSにおいて適宜周知する。						
(4)成績評価の方法	授業のトピックス毎に出す提出課題50％と、最終報告の内容50％によって、成績評価を行う． 授業のトピックス毎の課題は小テスト形式の内容で、6～7回実施し、eALpsで提出． 最終報告は、下記の要領で実施する． ・授業で取り上げた考え方のどれか一つを用いて、現実の問題について考察した内容を発表する． ・一人3～5分程度で、スライド5枚以上．報告用スライドは、予め、eALpsに掲載して、確認をできるようにする． ・内容は、現実の法律、制度、条例などだけではなく、職場内のルール、業界の自主規制、家庭内での家事の分担ルール、お子さんとの約束、仲間内の暗黙のルール、町内会のルール、スポーツのルール、ローカルな交通マナーなど、たくさんの可能性があると思います．						
(5)成績評価の基準	授業での解説を理解できているレポートは「水準にある(可)」、自らの視点から、対象となる課題に論理的な言及がなされれば「やや上にある(良)」、自らの視点からの言及が特筆すべき内容であれば「かなり上にある(優)」、レポートの内容が、当該分野の研究上、重要な示唆を与えるものであれば「卓越している(秀)」。						
(6)事前事後学習の内容	講義の内容は、毎回レジュメを配布するので、講義の後に十分に復習をすること．復習の過程で不明な点や理解できない点が出てきた場合、必ず担当教員に質問すること．経済学の分析による帰結は、直観的にイメージすることとは異なることが少なくない．学習した内容をすぐに確認し、理解するように努めてほしい．						
(7)履修上の注意	ミクロ経済学における価格理論、不確実性下の意思決定、情報の経済学、ゲーム理論について、基本的な知識を備えていることを前提として講義を進めるので、よく復習しておくこと．						
(8)質問、相談への対応	オフィスアワーは、木曜日4限とする．オフィスアワー以外の時間での質問を希望する場合、予め、メールでhirosey@shinshu-u.ac.jpに連絡を取り、アポイントメントをとること．研究室を不在にしていることがある．						

【教科書】	特に指定する教科書はない．講義中にレジュメを配布する．
【参考書】	スティーブン・シャベル 「法と経済学」（日本経済新聞出版社，2010年） 柳川範之「法と企業行動の経済分析」（日本経済新聞社，2006年） 三輪芳朗，神田秀樹，柳川範之「会社法の経済学」（東京大学出版会，1998年） 神林龍編著「解雇規制の法と経済 労使の合意形成メカニズムとしての解雇ルール」（日本評論社，2008年） 穴戸善一・常木淳「法と経済学」（有斐閣，2004年）